

### 三、神原龜太郎君の人と事業

神原君

四月十一日夕刻、君は偶々訪れた宝塚紫霞荘の一室で、突然、狭心症の発作に見舞われ、間もなく来診してくれた医師の手当も甲斐なく、忽焉として、五十八年に及ぶ有限の生涯を閉じました。山野は新しい緑にその装いを改め、万象は悉く生の躍動に嘗々たるの時、天は無慈悲にも、何の予告もなく君を奪い去ったのであります。一体こんなことがあってよいのか、まことに天意の測り難さに、只呆然として自失するのみであります。

神原君

君には、最愛の妻子にいい残したい多くのことがあったにちがいない。とりわけ華燭の典を間近に控えた千鶴子さんや、いたいけな裕彰君に対しては、熱い祈りと願いがあったにちがいない。君の苦心経営にかかる事業の将来につき、これまで君と辛酸を共にし、栄辱をわかつてきた役員の方々に図りたい数々の計画や目論見があったにちがいない。また終始醇厚な友情を交わしてきた友人とは、心ゆくまで人生の哀歡を語り合いたかったにちがいないと思えます。

しかるに天は、そうした余裕を君に与えることなく、蒼惶として君を天に回収してしまったのであります。何というむごい仕打ちでありましょう。いくら怨んでも怨みきれないものがあります。せめてもの君の慰めは、君の親友、宮脇、太田、坂口、田中、荻野の五君が、この世における君の最後を見とつてくれたことであつたでしょう。

#### 神原君

私は君との永別が動かし難い事実となつておるのに、こんなことがあつてたまるものかと今尚自分にいい聞かせております。今、君との訣別に当たり何語り何を訴うべきや、考えのまとまりがついておりません。只、力なく君との間に恵まれた交友の糸を手繰り寄せるばかりであります。

#### しかし神原君

何といつても、君の一生は実に立派な生涯でありました。為して恃むところなく、功なりて奮るところなき君でありました。犠牲は進んでみずからが受け、功は悉く人に与えて悔ゆるところなき君でありました。他者のためにみずからを捧げつくした君でありました。

家族に対する君の愛情は、人一倍深く且つ切々たるものがありました。友人に対する君の友誼は実に醇厚且つ周到でありました。ドライな営業の世界においてさえ、常に相手方の立場に対する理解と同情を忘れることのない君でした。だからこそ、君は暖い家庭と友情に恵まれ、事業に

おいても素晴らしい成功を収め得たのであります。君の豊前を飾るに足る位階と勲等はありません。しかし人爵の遠く及ばない不滅の天爵が、さんとして君の豊前を飾っております。さればこそ、天は君の回収を急ぎ、別の世界で君に期待するところが大きいことを示したとしか思われないのであります。

神原君

「山は高きを以て貴しとせず」といわれております。人の値打ちはその生涯の長さを以て測ることはできません。短命にして克く万古に生きた人もあれば、碌々徒食して馬齢を重ねる人もあります。還暦に満たない君の一生は、必ずしも長かつたとはいえません。しかし君の一生は、人と事業に対する珠玉のような愛情と献身に彩られた一筋の真実の結晶でありました。君は家族に愛され、友人に敬愛されました。君は事業を創め、その何れにも成功いたしました。君の傑作ともいふべき生涯を貫き通した真実は、必ずや神原家の和合をもたらす力となり、君の創成にかかると事業の成長を促す生命力となることでしょう。

神原君

私は君を追慕する御家族をはじめ多くの人々と共に、君との交友に生きがいを感じ、何かにつけ君に甘えてまいりました。そしてその幸運は当然いつまでも続くもののように思い込んでまい

りました。しかるに今、われわれは突如として君を奪い去られ、生の隣りに死が住むことを思い知らされたのであります。天は、この世における君との交友の扉を開きすことによつて、いつまでも君に甘えてはいけないことを戒めてくれたのであります。われわれは雄々しく立上がらなければなりません。君もまた、われわれに力強く立上がることを希求しておられることと思ひます。

神原君

君も、私も生きとし生けるすべての人々は、結局測り知れない天命に抗することができません。ただできることは、思いを一にし、乏しい力を合わせて雄々しく生き抜くことです。

君には最愛の夫人の下、君の志を継いで遅しく立上がらんとする七人の子女がおります。君の残した事業は、厚い信用に支えられて生々発展の道を辿つております。

神原君

君は立派に完璧の生涯を生き抜きました。正に男子の本懐であります。君の遺志は、君の御遺族はじめわれわれの手によつて引継がれ、君の創始した事業は君が期待した以上に見事に成長することでしょう。

それでは神原君

安んじて瞑せられよ。